

「都市の翻訳機」

3Dで何が見えるようになる？

～「3D都市モデル」の活かし方～



「つぶやき」でまちづくりしませんか？

「都市の翻訳機」は市民のつい、つぶやきたくなる感情を3D都市モデル(PLATEAU)に直接重ね「空間データ」へと翻訳します



▶ 「つぶやき」を都市改善に使えるデータへ変換

まち声
LABO

X 水戸市デジタル
イノベーション課

実現への流れ

フェーズ1
MVP実装
初期ユーザー獲得

フェーズ2
3Dマッピング
分析レポート

フェーズ3
行政実装

「つぶやき」をNLPで解析し、 3D都市モデルに重ねる【新しい3D活用】

- 1 LINE上に「つぶやき」を投稿できる仕組みを構築
感情レイヤーとして水戸市のPLATEAUデータに重ね合わせる
- 2 「体験」に基づくまちの姿＝UXとしての都市像を可視化
- 3 都市計画課、商工会、デベロッパーなどが
3Dモデル上で市民の感情と物理データとを同時に確認
- 4 生活利便性を高める政策・都市計画に活かすことが可能に
- 5 「つぶやく」だけで生活者の体感が3D都市モデル上に可視化

市民・行政・企業が同じ【都市の体験地図】を共有することで、
水戸市のまちづくりが共生型へと進化

